



観光まちづくり

最前線

No.32

地域を歩くレポート

日本初の公園・飛鳥山公園150周年プロジェクト —近場の公園は存在しているだけでは意味がない、利用価値を見出そう!!—

帝京大学 経済学部 観光経営学科 大下ゼミ

明治6(1873)年に 上野・芝・浅草・深川とともに、飛鳥山公園は日本初の公園に指定されました。今年はちょうど150周年を迎え、数々のイベントが企画・実践されています。

■王子・飛鳥山地区は徳川吉宗が開発した江戸近郊の行楽地

江戸中期の江戸市中の人口増加に伴い、吉宗は庶民の日常的な楽しみを提供する場の開発を進めます。その一つ、北の拠点が飛鳥山を中心とする王子地区です。1720年に1270本の桜の植樹を指示しました。飛鳥山の花見のみならず、近傍の王子稲荷の初午や祭礼、石神井川の蛸狩や紅葉狩等、通年型の都市近郊観光地として人気を得ていきました。来訪者のための飲食の場として、また、地元の受入環境整備の一環として、水屋・酒樓・茶屋等の充実も求めていたのです。

■飛鳥山の新しい使い方・150の夢を募る

飛鳥山公園は令和5年(2023年)に、都市公園制度制定150周年を迎える記念の年となります。これまでの150年、これからの150周年を考えていくプロジェクトが進行中であり、この「飛鳥山公園150周年プロジェクト」の事務局を(一社)東京北区観光協会が担っています。現在、「150」にちなみ、公園内で今までできなかったことを実現するため、皆さまから「150の夢」を公募しています。

公園の活用についてのトークセッションを皮切りに、ペーゴマ等の昔遊びや焚火体験、絵本・紙芝居の読み聞かせ等、皆さまからいただいた夢を実現すべく様々なコンテンツを実施してきました。我々ゼミ生も、夜の公園活用とスポーツを通じた交流の促進を目標に「ナイトランニング」を企画し、提案しています。

■コロナで学んだ近場観光の対象地として利用価値を高めよう!!

「近場観光」—コロナ禍で身近な公園が注目されていたのに、最近はその注目度が低くなってきていると感じています。地域の魅力指標として、住民一人当たりの公園面積が掲げられます。人口が減少する中でこの指標は、人口が減少すれば何の手を打たなくても高くなっていくので意味のない指標となります。公園は「存在価値」でいるだけでは意味がなく、「利用価値」をもっと高めるべきではないでしょうか。

飛鳥山公園では、吉宗が桜を植え、飲酒、仮装、唄、踊りを許し、身分の差に関係なく花見を楽しむことを薦めたことで、今につづく花見スポットを維持してきました。現在の公園には様々な規制があるため、当時のようにはいかないかもしれません。しかし、吉宗に倣い、飲食等の規制を緩和するだけでも公園の利用価値が高まるのではないのでしょうか。

公園を昼間の遊び場だけでなく、夜もオシャレな時間を楽しめる近場観光の対象として利用されることを期待したいと思います。皆さまも飛鳥山公園150周年プロジェクトにご自身の夢、アイデアをご応募ください。お待ちしております。(FUKURIN(福島凜)・西村あゆみ&(一社)東京北区観光協会(ゼミOB吉澤拓朗))

【参考資料】飛鳥山150周年プロジェクト
<https://prkita.jp/asukayama150/>

飛鳥山150周年
プロジェクト

再現された江戸時代の花見弁当—いかに美味しくしよう!
北区飛鳥山博物館にて



ピクニック気分を味わってきました・・・



焚き火キャンプ……日常的にできれば、
もっと公園に行きたくなるな～!



日頃お世話になっている観光協会・山田さんの公園活用
を語るトークセッションの様様(2023年5月13日開催)